

第9回国際老年学協会マスタークラス体験記

大山 茜

(日老医誌 2018; 55: 694)

5月27日から29日までの3日間、タイのバンコク、Siriraj病院にて開催されました第9回 Asia Master Class on Agingに参加させて頂きました。日本をはじめとする台湾、中国、韓国、マレーシア、インドネシア、シンガポール、ネパールなどアジア各国から29人の老年医学を志す若手医師が参加しました。

今回は「認知症」がテーマで、BPSDのマネジメント法、認知症の予防法、栄養と認知症、認知フレイル、認知症とポリファーマシー、認知症における緩和医療や終末期医療などTutorの先生方からご講演を頂きました。各講演後、各国で抱えている問題点や各国における新たな試みについての紹介、参加者へのさらなる問題提起など活発な意見交換が行われました。小グループの活動もあり、患者の症候、検査所見から疾患鑑別を挙げ、治療方針を検討しました。限られた討論時間でしたが様々な鑑別疾患が挙がり、鑑別根拠、方針など、各国の医療事情に基づいた意見も挙がり積極的な討論が行われました。グループの代表者が翌日発表し、我々のグループは優秀グループとして表彰を受けました。多くの先生方が疾患について非常に深い知識を持ち診断根拠等を堂々と発表する姿が非常に刺激となり、今後も引き続き医師として精進していかなければならないということを改めて認識させられる機会となりました。

今回、「薬害有害事象と身体フレイルについて」題で口演発表しました。Tutorの先生から今後の研究の発展方法など貴重なご意見を頂き、今後の研究に活かしていこうと考えております。

宿泊先では、ベトナムの先生とご一緒させて頂き、ベトナムでの医学教育、老年内科の話をする機会を得まし



写真 先生方と

た。クラス後の夕食では、同席した先生方とお互いの研究や臨床の話、各国での医療の問題点やバンコクの観光スポットなどについて語り合い、ホテルに戻ってからも各国の先生方と楽しい時間を持つことも出来ました。

Tutorの先生方から、今後も研究においてお互いに協力しあえる関係を築いて欲しい、研究で困った時にはいつでも協力するから連絡をしてくださいと有難いメッセージを頂戴しました。英語でのプレゼンテーションの機会や各国の先生方との交流、各国の先生方が非常に熱意をもって老年医学を学んでいる姿勢に触れる機会を今回得ることが出来ました。

このような貴重な機会を頂きました日本老年医学会、ホストを務めて頂きましたMahidol大学のPrasit Watanapa教授をはじめお世話になりました先生方に心より御礼申し上げます。